

時間割コード	Q4400904	開講年度	2026					
授業題目	教育方法論【第4欄】					担当教員	藤井 善章	
英文授業名	Methodology of Education							
単位数	1	講義期間	前期(前半)	曜日・時限	水曜・4時限		対象学生	A
講義室	農学部 1 2 番講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他							
(3)全学横断特別教育プログラム								
(4)授業の概要	学習指導要領の変遷を整理した後、すぐれた実践者の授業から教育内容と教育方法を学び、ICTの活用を含めた模擬的な授業を開発する演習を通して、わかる授業の授業設計と実践に向けての基礎・基本的知識と技能を習得します。							
(5)授業のキーワード	学習理論 学力観 教育実践力							
(6)授業計画	第1回：教育方法学をめぐる諸問題について学ぶ(「学力とは何か」)。 第2回：伝統的な学習理論について学ぶ。 第3回：我が国における学習理論の展開について学ぶ。 第4回：教材研究と教材開発について、授業実践例から基本的要素を学ぶ。 第5回：子ども理解と授業設計について、授業実践例から学ぶ。 第6回：授業参観と授業分析の基本を学ぶ。 第7回：教材開発の手法について、具体手的な作業を通して学ぶ。(ICT活用を含む) 第8回：各自の専攻科目に対応した学習計画を作成し、発表する。(ICT活用を含む・グループ学習) 授業アンケートを実施する(最後15分で実施)							
(7)成績評価の方法	毎時間課すレポートの評価の基準 ・講義内容を正確に理解しているか(5点満点)、文量が適切か(5点) 期末レポート課題 「教育方法に係わる事例に対し、自分の考えを具体的に記述する」 ・論題に正対しており、かつ具体的な教育方法が記載されているか(70点) ・文量、質ともに十分であるか(規定を守っているか)(10点) 合計150点を100点満点に換算して評価する。							
(8)成績評価の基準	期末レポートの評価基準は、以下の通り。 さまざまな教育方法を正しく理解した上で、現代的教育課題に対する自身の考えを明確に述べることでできている。 テーマに正対した適切な先行研究(論文)の内容を1本以上踏まえた上で、その内容を自身の論に援用できている。 第三者が初見でも筆者の論の展開を追えるような、論理的かつ的確な説得的記述が行われている。 論の内容が常識的な教育方法に対して新しい見方を提示している。 からの4項目を満たしていれば「卓越している」。からのうち3項目を満たしていれば「かなり上にある」。および、の2項目ができていれば「やや上にある」。ができていれば「水準にある」。 毎回課すアクションペーパーでは、以下の3段階で評価を行う。授業の内容を踏まえた上で、自分の考えを分かりやすく記述されていれば「かなり上にある」、授業の内容が踏まえられていれば「やや上にある」、自分なりの考えを述べることでできていれば「水準にある」。							
(9)事前事後学習の内容	さまざまな学習理論に基づいた教育実践記録を見て、教育内容や方法の有効な点と課題について考察し、レポートにまとめる。 ICTを活用して、教材を作成する。 この授業は、15時間以上の時間外学習が必要となります。							
(10)履修上の注意	教員免許状取得希望者は必修です。 公開授業等随時連絡をするので、講義の他に附属中学校など実際の授業実践を参観することが望ましい。							
(11)質問、相談への対応	オフィス・アワー：講義後等随時対応します。 メールも可。 fujiiy@shinshu-u.ac.jp							
(12)授業への出席	すべての回に出席することが前提です。 アクションペーパーの提出(400字程度の記述)をもって出席とします。							
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	eALPSに掲載した資料をもとに自学自習し、レポートを提出。							
【教科書】	○藤井善章/小山茂喜編、「教育実習&介護等体験安心ハンドブック」、学事出版、2026年、2200円 ○自分の専門教科に関わる中学校(平成29年告示)と高等学校(平成30年告示)の学習指導要領 解説							

【教科書】	また、適宜、プリントや資料を配付しますが、eAlpsからも必要に応じてダウンロードする。
【参考書】	指定しない